



作文 2部

全国農業協同組合中央会会長賞

ぜんこくのうぎょうきょうどうくみあいちゅうおうかいちよしよ

# 祖父のお米はわが家のパワー

茨城県桜川市立雨引小学校六年

真崎 杏奈

かすみがうら市に住んでいる祖父は、七十四さいです。ずっと、ずっと、お米を作り続けて、私達に美味しいお米を届けてくれます。お母さんが、桜川市におよめに来たときから、今もずっと、祖父のお米は、わが家のごちそうのナンバーワンなのだ、私は思っています。

去年、お母さんは、夏休みに入っすぐに病気で入院しました。大きな手術をすることになってしまいました。お母さんとはなれたことのない私は、とても、悲しくて、心配でたまりませんでした。それに、家では、お母さんと私だけが女であとは男の人ばかり。ご飯はどうするのか、それも心配で、心細くて仕方がありませんでした。

「大丈夫。ご飯のたき方を教えるから。」

入院する前に、お母さんの特訓が始まりました。祖父の作ったお米を計量カップで計り、白い水を流して、たき上がったご飯は大成功でした。お母さんの代理ができそうだとうれしくなりました。

お母さんが入院中、お父さんはおかずを作り私はご飯をたきました。祖父のお米はいつもピカピカに光って、私を応えんしてくれているようでした。早く私のご飯をお母さんに食べさせたいと、そう思いました。病院にお見まいにいくたびに、お母さんが元気

になっていくのが分かりました。祖父のご飯を食べさせてやりたいな、と……。生まれた時から食べている祖父のお米が、もつとお母さんを元気にしてくれるにちがいありません。

ある日、そっと内緒で、小さなおにぎりを作りました。病院のお母さんに食べさせたかったからです。ご飯が手にくっついてベタベタですが、なんとか丸くなりました。ラップでつつんで、そつと自分のバックに入れました。これで、お母さんは、元気になるぞと思えました。だって、祖父のパワーと私の愛情がこもっているのです。

だけど、入院している病気の人は、外から食べ物を持っていて食べるのは、いけないそうです。大きな手術をした人は、外から悪いきんなどが入ったりすると、命にかかわることもあるそうです。そういう話を聞いたので、私はだれにも言わずに持ち帰り一人で食べました。なみだが出ました。

「あせらない、あせらない。」

自分に言い聞かせました。

お母さんが退院しました。祖父の田んぼに新米が出来るころ、家で治りようする事になったからです。しばらくして、

「新米ができたぞー。」

祖父とお米と一緒に、わが家にやってきたのです。私はすぐに新米でご飯をたきました。ご飯はすぐにお母さんの力になりました。今年も、祖父のお米が届くころです。病気のお母さんを支え続けたお米です。祖父のお米はわが家のパワーの源です。